

令和2年度
大松小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

主体的・対話的で深い学びを実現するための授業づくり

学力向上検討委員会構成

校長 真鍋 紀子

校長 真鍋 紀子

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題に対して一生懸命取り組む児童が多い。どの学年も当該学年の学力を平均的に身に付けている。 ●量と測定や図形について、知識理解が十分でない。文章を読みとる力が弱く、長文問題に苦手意識をもっている。	①基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。 ②文章を速く正確に読み取ることができる。	①板書・ノート指導を充実させる。 ②速音読を朝の学習や国語の時間に全学年実施する。 ③具体物を操作させながら定義や意味・言葉などを繰り返し指導する。 ④一人一人の習熟度に合わせたスキル学習を実施する。		構造的な板書については87%、ノート指導については79%の教員が「できた」と答えたが、「ノートが丁寧に分かりやすくかけた」と答えた児童は66%であった。「丁寧に分かりやすく」というのは、どのようなことなのか分かりにくかったこと、2つの項目を尋ねたことがポイントを下げた理由ではないかと考える。 速音読については、全学年で速音読ドリルを購入し、指導した。学年差、個人差はあるが、1分間で読める文字数が増えてきている。	来年度も児童のノートを定期的にチェックし、具体的に良いノートを示したり、「学びナビ(大松っ子秘伝の書)」を参考にしたりして繰り返し指導していく。 速音読については、来年度も引き続き取り組み、全国学力学習状況調査やステップアップテストで効果を検証したい。 今年度、習熟度別に学習できるプリントを作成したので、来年度は朝の学習等で活用できるようにする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○体験的な学習や課題を解決する学習に意欲的に取り組める。 ●根拠や理由を明らかにして自分の意見を自信をもって発表したり、友達の考えと比較しながら発言したりすることに課題がある。また、自分の考えや思いを文章で表現することに課題がある。	①相手や目的を意識して、根拠や理由を明らかにしたり、自分の考えと友達の考えを比べたりしながら発言するなど、自分の考えを豊かに表現することができる。 ②自分の考えや思いを文章で表現することができる。	①学習活動の中で、友達と意見を交流する活動(ペア活動等)を意図的に取り入れる。 ②自分の考えを文章に書く・表現する機会を意図的に設ける。 ③「学びナビ」を改良し、活用させる。		発表については、70%の児童ができたと答え、昨年度よりも伸びてきている。今年度はペアやグループ活動が十分できなかったことも考慮するとあまり悪い数値ではないと捉える。 学びナビについては今年度改良し、「学級会」「英語」「作文の書き方」を加えた。学級会や英語の時間が充実してきている。	発表については、状況に応じて、ペアやグループ学習を取り入れ、自分の考えを表現する場を増やしていきたい。そうすることで、自分の考えに自信をもったり、根拠や理由を明らかにして表現したりできる児童を増やしたい。 学習の時間にはいつも「学びナビ」を携帯させ、どの授業でも活用できるようにする。話し方や聞き方だけでなく、書く力についても伸ばしていきたい。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業や家庭学習に真面目に取り組む児童が多い。 ●言われたことは出来るが、自分で課題を見付けることに課題がある。自主学習を工夫したり、集めた情報を分かりやすく整理することが十分でない。	自ら課題を見付け、積極的に学習に取り組み、自信をもつことができる。	①児童の主体的な体験や活動を取り入れた授業をする。 ②「家庭学習の手引き」を渡し、適宜指導するとともに、学年便りや学級通信、学力向上便りを通じて家庭との連携を大切にし、家庭学習の習慣化を図る。		主体的な体験や活動も今年度は制限されることが多かった。しかし、方法を工夫することで、新しい取り組みもでき、児童の自信につながった。 宿題については、90%の保護者が忘れずにしていると答えた。家庭で宿題等をよく見ていることが分かった。家庭との連携をとることができている。	家庭学習の仕方は、身に付きつつあるので、来年度は自主学習の内容や方法についても具体的に指導し、その仕方を身に付けさせたい。また、来年度も「家庭学習の手引き」を年度当初に配布し、学年便りや学級通信、学力向上だよりを発行し、家庭と学校が連携して、学習の仕方を定着させたい。

令和2年度 学力向上ロードマップ

